

# ひのたにえん

2020 冬号



運動会での一場面

## 「それぞれの満足のかたち」

ひのたに園 副園長 飯田尚樹

この冬は暖冬と聞いていますが、それでも冬の厳しさを感じる時季となりました。

現在、ひのたに園では100名近い方々が暮らし、作業へ出る方や役割を持つ方、皆さんそれぞれの過ごし方をしています。前号でご報告した「あぐりひのたに」の活動も順調で、畑の野菜は収穫してすぐ園の食卓へ上がり、「育てる」と「食べる」両方の楽しみを感じられる様になりました。皆さん「今日は大根たくさんとってきたで！」と教えて下さいます。

10/26の文化祭では、日野中学校吹奏楽部の演奏や、職員ミニコンサートでは遊びに来ていた小中学生も飛び入りして一緒に『パプリカ』を歌って踊る一幕もありました。併設の作品展は多くの方が足を運び、今年度始まった「アトリエセラミカ」の陶芸や「アートクラブ」の作品を鑑賞してもらえました。模擬店も充実し、お腹も心も満足の日でした。11/25には、わらべ保育園の「芋煮会」へご招待いただき園児たちと楽しく交流しています。

今年度もひのたに園は、すでに50人の利用者が入れ替わる速さで入退所があります。ここ数年は「日中活動・行事の充実」にも力を入れたことで、10月の「満足度調査」の結果でもその反応を伺い知ることが出来ました。一方で「支援のあり方に不満足」と評価する方もおり、生活に安心・安定を感じながらも居宅生活への移行を望む方たちにとって、これからも積極的な取り組みと計画的な支援が必要であるとあらためて感じています。

11/14はインフルエンザ予防接種を行いました。昨年度は毎日の換気や手洗い・うがい・マスク着用等、予防に力を入れたおかげで「罹患者0名」で過ごせました。この冬も皆さんと協力し、全員無事に冬を越せるように、そして充実した暮らしに繋げられる様にと願っています。



10月

- 10/3 運動会
- 10/10 全救協・全国大会参加（職員3名）
- 10/26 文化祭

11月

- 11/7 焼き芋会
- 11/22 滋救協・合同研修参加（職員6名）
- 11/25 わらべ保育園芋煮会へ参加

12月

- 12/6 タイ・カオディーン研修参加者  
の視察受入（26名）（4面参照）
- 12/9 全国居住支援法人協議会研修会参加（3名）
- 12/25 クリスマス会

## 10/3 運動会が行われました！

毎年恒例のひのたに運動会を10月3日開催しました。近年は台風の影響を受けやすく、今年度も館内の交流センターでおこないました。思いっきり体を動かしていただくには狭い範囲にもかかわらず、利用者さんもわらべ保育園の園児さんもこぞとばかり、めいっばいハッスルして運動会を満喫してくださったようでありです。

心地よい汗をかくことに利用者さんと園児さんと職員の隔たりはなく、皆が一つになりました。体というのは不思議なもので、声援を受けたり声援を送ったり明るく楽しい雰囲気の中だと、いつも以上の笑顔や力が溢れてくるのだなあと、あらためて園の行事の素晴らしさを感じさせてもらえた運動会でした。（伊藤）



パン食い競争



綱引き



大玉転がし

## 10/26 文化祭を開催しました！

お天気に恵まれた10月26日、文化祭を行いました。午前のメインイベントは、日野中学生によるブラスバンド演奏、午後には職員有志によるミニコンサート。午後のミニコンサートでは、日野中学生の飛び入り参加もあり職員と一緒に「パプリカ」を踊り盛り上げてくれました。利用者による展示は、日中活動で製作したちぎり絵のグループ作品、個性を生かした個人作品とあわせて、今年はアトリエセラミカによる、陶芸作品の展示も新たに加わり多彩になりました。

模擬店では、利用者（さつきグループ）が、利用者や外部からのお客様に綿菓子をつるまいました。また、閉会後には、職員お手製による直径50cm超のミラーボールがまわる「一日限りのカラオケボックス」が一目見えし、文化祭の余韻を利用者、ご家族、職員も楽しみました。

今年の文化祭も、地域の皆様やボランティアの皆様の協力で盛大に終わることができありがたく思っています。利用者からは「次は自分たちも模擬店をしたい」「会場の案内係をしてみたい」と主体的な声があがり、

来年は既に新たな企画が生まれる予感がしています。ご家族、地域の皆様、利用者ともに笑顔になれる文化祭へ、ぜひ来年もお越しください。

（森嶋）



## 「なんでも経験してきた、ものすごい万丈波乱やで」

荒井清隆さん（78歳）

入所されて半年、いつも両手を後ろに組み、冗談を言われている荒井さんにこれまでのお仕事に就いてお伺いしました。

>以前はどんな仕事をされてたんですか？

家が食堂やとったんよ、そこで家業の手伝いやとったわ。従業員も5人いてな。毎日朝4時から夜の23時まで、昔は仕事終わりのタクシーの運ちゃんとかがようけ来たわ。ここ（ひのたに園）にも、その食堂に行ったことあるって人おったで。

>朝4時から！すごいですね。今もやってるんですか？

今は妹がやってるみたいやわ。でも今はあかん、会社はみんな弁当やろ。若い子はコンビニで握り飯買って食べてる方がええしな。

>今は牛丼チェーンとかもたくさんありますしね。そのあとはどんな仕事を？

大丸とか高島屋で働いててな、注文受けた商品を届けに行く仕事やってたわ。それからスーパーに郵便屋に。ここの前は警備やってたわ。

>どこの警備をされてたんですか？

最初は京都教育大学。それで京大附属病院。病院は巡回や。ここと一緒に、あんたらも夜部屋回ってるやろ。それで異常が無いか見てくねん。あとAEDが順調に作動してるかとかかな。

>そうなんです、小学校でも警備されてたんですよね？

障害の子たちもおってな、学校の外に出ないかどうか見るんやわ。

>外に出る子がいるんですか？

しょっちゅういるがな。でも何時にどっから出るとかな、分かってくんねん。追いかけたらあかんから、どこ行くか見届けて、教頭や校長に報告や。

>経験がものを言うんですね。

そうや、人生ものすごい万丈波乱やで。どこ行っても大事にしようたんや。

（聞き手・文 御代田）



# 人生いろいろ

## 「好きなものばかり作ってはいられませんね」

光藤邦雄さん（60歳）

職員以上にひのたに園の行事予定や他の利用者の状況をよく知っている光藤さん。その気づきには時折職員もハッとさせられます。そんな光藤さんに、お話を伺いました。



カレンダーで予定を確認する光藤さん

>ここでの暮らしはどうか？

北岡さん（現・生活支援員）が調理師をしていた頃に入所して12年が過ぎたけど、車椅子を押させてもらったり、食事の箱を運んだり、職員の仕事のお手伝いをして楽しく暮らしています。最近は先生のすすめでデイケアに通うようになりました。

>デイケアでは何をしていますか？

デイケアでは勉強会をしたり皆で自己紹介をしたりして日々の生活に必要な訓練をしています。グループホームに行きたいと思っているのでその訓練をひのたに園を出てからの生活に活かしたいと思っています。

>暮らしていけそうですか？

昔、レストランで調理師をしていたので料理は得意なんです。仕込みなんかはほとんど任されてました。得意料理はかつ丼です。好きなモノばかり作ってられないのでしっかりと節約していきたいと思っています。

>頑張りましょうね！

ありがとうございます。出来ることはたくさんしたいので何でも言ってください。

（聞き手・文 檜山）



## ぴかつ to アート展「第9回障害のある人による公募作品展」に出品！

ひのたに園はアーティストの宝庫です。また日常の中に作品作りをする時間が多くあります。今回はたくさんのアート作品の中から選りすぐりの作品を応募しました。厳しい審査をくぐり抜け、3名の方の作品が最終審査を見事通過し入賞しました。入賞作品は、イオンモール草津2階「イオンホール」で展示され、ひのたに園からも実際に会場へ出かけ、自分たちの作品はもちろん、他入賞者の作品の数々を鑑賞してきました。以下、入賞者 KAZU さんの制作への思いです。(後藤)

----- 出品者 KAZU さんより -----

「何処(どこ)にも無(な)い作品づくり」

安土城は私にとってとても思い出深いところ。今回入選した「ぴかつ to アート展」は、とてもレベルが高くて圧倒されました。大きな絵や迫力のある絵が多かったのですが、今後は内容や発想力豊かな作品づくりを心掛けたく思っています。

### 今回入賞した3作品



## ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 「ing... ~障害のある人の進行形~」展に出展！

今回 Ing 展に出展した作者さんは長谷川さんです。

作品自体を園に来られてすぐに作り始められ、いつか分からないぐらい昔に本で勉強したものであるとのこと、コツコツと広告やコピー用紙を一定の大きさに切り分け、それが終わると一枚一枚織り込んでいくという根気のいる作業を居室で続けられていました。最終孔雀を作るのに 800 枚以上もの紙がいるとのこと！最初の作品から 2 年程で 10 作品以上作成されており、今では女性談話室で数人の女性が集まって一緒に制作されています。本人の居室には多くの作品が所狭しと置いてあり、園内でもあちこちに飾られています。(高田)



自身の部屋のタンスに所狭しと並ぶ作品の数々



長谷川さん



展示作品

### タイ・カオディーン村研修参加者が

### 視察に来られました！

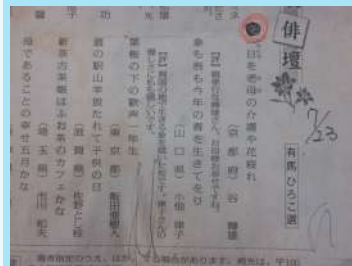
12月6日、タイ・カオディーン村での研修ツアーに参加した全国の福祉関係者、26名がひのたに園に視察に訪れました。利用者さんも10名以上集まり、一緒にお菓子をつまみながらフリートーク。それぞれの生い立ちを聞き、「一人一人に、歴史ありだね」という感想も聞かれました。慣れない質問攻めに緊張しながらも、皆さんが楽しそうに話をしてひとときを過ごしていました。



## 谷輝雄さんの俳句

俳句が趣味の谷さん、普段はあまり人に自慢しませんが、部屋で毎日 Campus ノートに俳句を書き綴っているそうです。「おーいお茶」や新聞にも俳句を投稿し、選出されることもしばしば。聖教新聞に掲載されたこの俳句は、数年前、車いすのお母様と2人で花見に行った時の思い出を読んだ句だそうです。

いちにち は は はなづか  
「 一日を老母の介護や花疲れ 」



新聞に掲載された俳句



谷輝雄さん

### 編集後記

もう新春を迎えてしまいましたが、この冬号では、ひのたに園の秋(10月~12月)の様子を紹介しています。まさに芸術の秋。ひのたににもアートの風が吹いてきました。9月から始まったアトリエ・セラミカ(陶芸活動)も順調です。人生いろいろ、表現の形もいろいろです。



介護施設「ひのたに園」広報誌(2020年冬号)

2020年1月発行

〒529-1601 滋賀県蒲生郡日野町松尾121

TEL 0748-53-0645 FAX 0748-53-2598